

平成25年（2013）9月 入域観光客数概況

9月の観光客数は、60万7,400人
対前年（H24）同月比 +10万100人、+19.7%
～台風影響少なく12か月連続で前年同月上回る～

入域状況

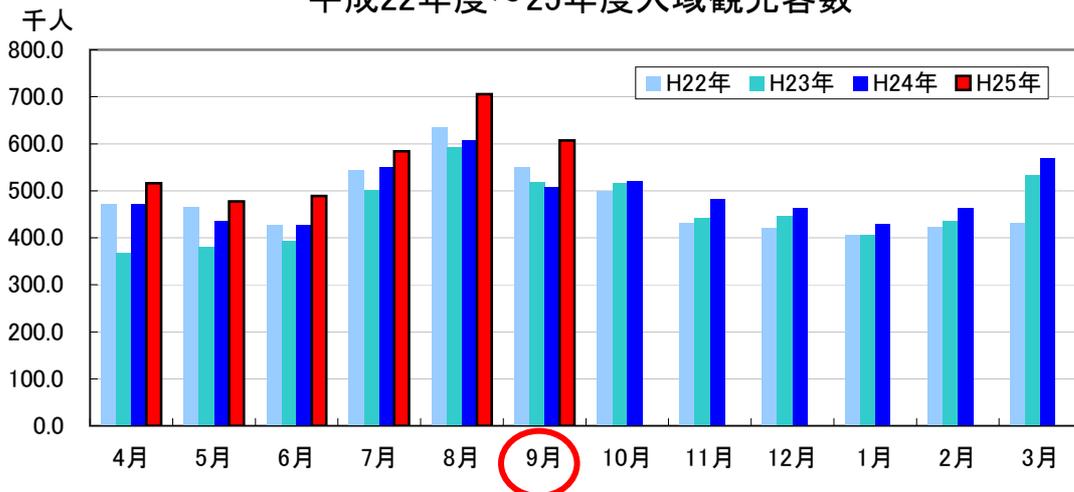
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	546,200 人	474,800 人	+ 71,400人	+ 15.0%	89.9%
外国客	61,200 人	32,500 人	+ 28,700人	+ 88.3%	10.1%
合計	607,400 人	507,300 人	+ 100,100人	+ 19.7%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	546,200 人	474,800 人	+ 71,400人	+ 15.0%	91.5%
外国客	51,000 人	27,000 人	+ 24,000人	+ 88.9%	8.5%
合計	597,200 人	501,800 人	+ 95,400人	+ 19.0%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

9月は、前年は連休中・週末に2回の台風が襲来したが、今年は台風による影響がほとんどなく、連休が2度あったこともあり、前年以上の入込となった。

10月は、月初めの台風により音楽イベントの中止や旅行キャンセルが出るなど若干の影響があり、今後も関東地方への大型台風の襲来が懸念されるが、日本国内の旅行市場の好調さを背景に、官民上げてのプロモーション効果もあり沖縄への入込は今後も好調な推移が期待できる。

外国客 入域状況

9月は、重点市場を中心に好調な訪日旅行需要に支えられ、国内LCCの台湾路線就航、また、中旬の連休中（中秋節、チュソク）に台湾・韓国からのチャーター便による送客が好調で、前年を上回る結果となった。

10月は、依然として円安による訪日旅行需要の高まりに加え、台湾・韓国・タイからのインセンティブツアーも増加し、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	276,000 人	247,700 人	+ 28,300人	+ 11.4%	50.5%
関西方面	115,200 人	94,300 人	+ 20,900人	+ 22.2%	21.1%
福岡方面	65,000 人	56,100 人	+ 8,900人	+ 15.9%	11.9%
名古屋	40,400 人	33,800 人	+ 6,600人	+ 19.5%	7.4%
その他	49,600 人	42,900 人	+ 6,700人	+ 15.6%	9.1%
合計	546,200 人	474,800 人	+ 71,400人	+ 15.0%	100.0%

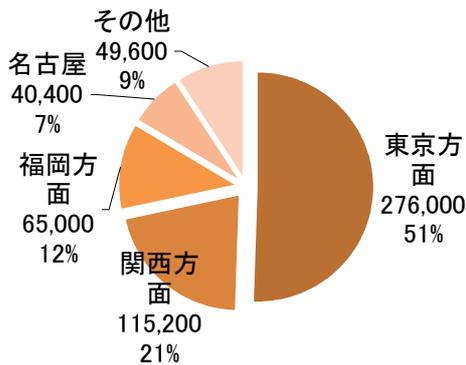
※国内海路客 1,900人を含む(関西:100人、鹿児島:1,800人)

外国客 国籍別入域状況

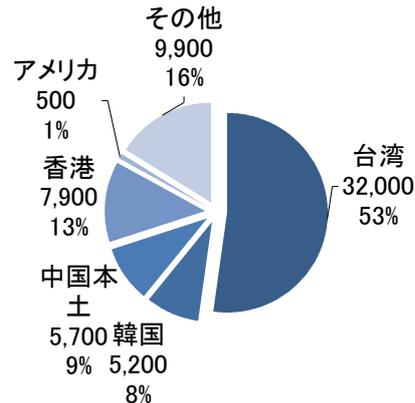
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	32,000 人	32,000 人	15,500 人	+ 16,500人	+106.5%	52.3%
韓国	5,200 人	5,200 人	1,900 人	+ 3,300人	+173.7%	8.5%
中国本土	3,400 人	5,700 人	4,200 人	+ 1,500人	+35.7%	9.3%
香港	7,900 人	7,900 人	5,400 人	+ 2,500人	+46.3%	12.9%
アメリカ	500 人	500 人	400 人	+ 100人	+25.0%	0.8%
その他	2,000 人	9,900 人	5,100 人	+ 4,800人	+94.1%	16.2%
合計	51,000 人	61,200 人	32,500 人	+ 28,700人	+88.3%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	19,200 人	19,200 人	+140.0%	50.5%	12,800 人	12,800 人	+70.7%	55.2%
韓国	5,200 人	5,200 人	+173.7%	13.7%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,400 人	3,400 人	+25.9%	8.9%	0 人	2,300 人	+53.3%	9.9%
香港	7,800 人	7,800 人	+44.4%	20.5%	100 人	100 人	皆増	0.4%
アメリカ	500 人	500 人	+25.0%	1.3%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	1,900 人	1,900 人	+72.7%	5.0%	100 人	8,000 人	+100.0%	34.5%
合計	38,000 人	38,000 人	+94.9%	100.0%	13,000 人	23,200 人	+78.5%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月は、比較的安価なパッケージ商品が売り上げを伸ばし、学生など若い世代の旅行を中心に好調に推移した。
10月は、一週目に襲来した2つの台風によりイベントが中止となり、旅行キャンセルなど影響が出た。しかし、旅行商品の販売状況は良いため、中旬以降に好調であれば前年並みとなる見込み。11月及び日並びの良い年末年始も現時点では好調の様子。

大阪

7月以降の伊丹-那覇路線の増便の影響により、関西空港・神戸空港の利用客が伸び悩んでいるが、LCC路線の利用が多く、9月は全体として好調に推移した。
10月以降の航空便予約や旅行商品の販売状況も現時点では好調で、Web購入が多いLCC利用者を含めると前年以上となる見込み。

福岡

9月は、3連休のあった中旬・下旬に入込が増加し、好調に推移した。夏期運航の福岡-石垣路線については、他地域からの直行便の利用状況と比べると低調であった。
10月は九州ブロックPTA大会開催により旅行商品の販売状況は好調、前年以上に推移する見込み。11月以降、福岡-那覇路線の機材が小型化されるため、送客に影響が出る懸念される。

名古屋

9月は、東海地方～関東地方を通過した台風の影響により航空便に欠航が出たものの、3連休のあった中旬・下旬に入込が増加し、前年を上回る結果となった。石垣直行便が引き続き好調で、八重山地域の離島周遊ツアーの人気の高い。
10月は、台風の影響は懸念されるものの、予約ベースでは依然として好調で前年以上となる見込み。

台湾

9月は、夏場に比べ落ち着きをみせているが、中秋節の連休中にチャーター便が就航、また、国内LCCのピーチ・アビエーションが就航し便数が拡大しており、訪沖旅行はインセンティブツアー(企業の報奨旅行など)を中心に好調に推移した。
10月は、石垣路線が運休となり八重山への送客が落ち着くが、本島への入込は引き続き好調を維持する見込み。

韓国

9月は、日韓関係及び安全上の懸念により訪日旅行需要が鈍化傾向にあったが、チュソク(韓国の旧盆)の連休中は那覇及び宮古へのチャーター便が好調で、前年比で増加した。
10月も前半の連休は2度の台風襲来の影響を受けた可能性があるが、インセンティブツアーの増加により前年並みとなる見込み。

中国本土・北京

9月は、夏休みが終了し旅行市場が落ち着いているが、訪沖旅行市場は前年9月以来の不調から徐々に回復傾向にあり、1年ぶりに前年同月の結果を上回った。
10月以降、依然として海南航空の北京路線の再開の目処がたらず、国慶節連休中の新規チャーター便の就航もないが、今後本格化する沖縄観光プロモーションの効果を期待したい。

中国本土・上海

9月は、北京と同様に旅行市場が落ち着く時期にあるが、前年以上の入込となった。
10月は、前年の不調の反動増に加え、国慶節期間中は機材大型化及び増便となるため、前年以上の入込となる見込み。また、12月には上海発の中国人向けクルーズ船寄航が決定しており、今後の旅行需要回復に明るい兆しがみえる。

香港

9月は、夏場に比べて旅行需要が落ち着きつつあるが、訪日旅行の人気の後押しされ、好調に推移した。旅行社が独自キャンペーンを実施し、積極的に需要を喚起している。
10月以降、香港エクスプレスが夏期同様の機材(284席)を利用するため、好調を維持する見込み。テレビ番組でPRした体験メニューを組み込んだ旅行商品の販売が好調。